

受賞者のコメント

今回の公式キャラクター採用決定の連絡をもらった時は、本当に嬉しくて共同制作した妹にもすぐに報告しました！一次選考を通過して、二次選考が伍桃祭での来場者投票だったので、思い描いたイメージどおり、人と人をつないでくれて、たくさんの人に好きだな、また見たいなと思ってもらえたのかなと嬉しく思いました！！

キャラクター制作は、離れて暮らす妹とビデオ通話でペイントソフトの画面を共有し、2人でイラストを見ながら書きあげていきました。募集キャラクター像のひとつ「人をつなぎ、つながることが大好き！」という一面と、同窓会広報誌のタイトル「tete」から、眠る時に離れないよう手をつなぎ習性をもつ「ラッコ」がイメージにぴったりだと思い、フレンドリーで人と手を繋ぐことが大好きな『つなでちゃん』を制作しました。

私は現在、千葉県で臨床工学技士として透析装置の操作やメンテナンス、ペースメーカーの管理業務に従事しています。同じ学科を卒業した妹は、新潟の不妊治療クリニックで胚培養士として働いています。仕事をする上でも多くの職種とのつながりは必要であると思います。

母校で学んだ多職種連携のように、つなでちゃんもNUHW同窓会の公式キャラクターとして両手でたくさんの人をつないで、大きな輪ができていきかけとなってほしいと願っています！！



住吉 美穂

臨床技術学科 2015年卒
●勤務先/医療法人徳洲会 千葉徳洲会病院 臨床工学科



共同制作
住吉 香穂(妹)

たくさんのご応募とご投票 ありがとうございました。

新潟医療福祉大学同窓会は2024年に設立20周年を迎えます。20周年を迎えるにあたり本会がより皆様に親しまれる団体になっていくためシンボルとなる公式キャラクターの制作をおこなうことになりました。

新潟医療福祉大学同窓会が大好き！人とつながることが大好き！新しいこと・挑戦することが大好き！のコンセプトのもと23作品が集まりました。

伍桃祭では投票企画も準備し、同窓生・在学生・地域の方々にも投票いただきました。投票総数は954票に上り見事、『つなでちゃん』が選ばれました。仲間同士で手を繋ぐ習性があるラッコをモチーフにした『つなでちゃん』は各フィールドで活躍する同窓生の繋がりが表現でき、可愛らしさや癒やしも兼ね備えたキャラクターです。今後はグッズ製作などをすすめ皆様に親しんでいただけるキャラクターにしていきたいと思っています。

最後に、本企画に携わっていただいた方々に深く感謝申し上げます。今後とも『つなでちゃん』と同窓会をよろしく願います。



新潟医療福祉大学同窓会 幹事
金内 一品

健康スポーツ学科 2016年卒



応募No.22



つなでちゃん

新潟医療福祉大学同窓会
公式キャラクター
決定しました！

応募総数
23作品！
投票数
954票！

プロフィール

人と人がつながることが大好きな ラッコの子

性格はとってもフレンドリー。人と手を繋ぐのがだいすき！
頭には伍桃をイメージした桃の花をつけているよ。
貝殻型のスマホでなんでも調べる好奇心旺盛な一面もあるんだ。
特技はみんなをつなぐこと。
かわいいピンクの肉球のついた手を大きく広げて、
フレンドリーにみんなをつなげるよ。



一度きりの人生を多彩に。
トリプルワークをこなすマイスター



1 / 素敵な笑顔で仕事やお味噌のこだわりを教えてくださいの町永さん 2 / 「減塩」「無添加」「自然由来」をテーマに、原材料にもこだわり、米麹と麦麹に絞って、日本各地の味噌蔵から8種類を厳選したナンバースシリーズ 3 / 管理栄養士と老舗味噌蔵、腎臓専門医のコラボレーションで生まれた世界に一つだけの味噌「はるひ」 4 / お味噌の試食を提供してくれる町永さん



風味も全く異なる8種類のお味噌にそれぞれ名前を付けたことです。入社してすぐ、商品のキャッチコピーを付けてほしいと社長から依頼され必死で考えました。最初は番号で呼ばれていたお味噌でしたが、販売先の八百屋さんから「麦キング」「フルーティー」と私が考案した名前で商品と呼んでいた。いただいた時はとても嬉しかったです。プロダクトを作り上げていくのは地味な仕事が多いですが、私の仕事を誰かが見てくれていると思ったらどんな商品にも愛着が湧いてきました。

今後の目標は「OMISONOMORI」の商品をより多くの方々を知っていただくことです。そのためには、販売先を見つけていくことも大事ですが、まずは社内での認知を広げることが必要だと気づきました。会社全体として見れば、お味噌の事業は出来たばかりの小さな芽です。クラウドファンディングで苦戦した際、もっと

作業療学科
2011年卒

町永 郁恵さん

新潟県長岡市生まれ。学生時代は“感情のジェットコースター”の異名をもつ周囲に愛されるキャラクターでOT7期生の仲間たちと4年間を過ごす。社会人になってからも独学で英語を学び、外国人の訪問看護にも対応している。作業療法士の視点を持ちながらリハビリテーション以外にも活動の幅をどんどん切り開いていくアグレッシブさが魅力。

現在の仕事内容と
トリプルワークに至るまでの道のりを教えてください。

現在、株式会社メディセプトという会社で「OMISONOMORI（おみその森）」という天然醸造の減塩お味噌シリーズの販売をしています。その他にも、訪問看護の仕事や飲食店でのアルバイトも合わせてトリプルワークをしています。

「健康な方にも、食事制限がある方にも豊かな食卓の提供を」のコンセプトで全国のお味噌蔵さんと共に減塩のお味噌の商品開発をおこなっています。最近ではクラウドファンディングを活用することで弊社オリジナルお味噌「はる

ひ」の販売開始に至りました。管理栄養士がお米や大豆、麹などの調合にこだわり、健康に特化したお味噌の提供をおこなっています。現在は、アシエイventや八百屋さんなどで試食販売会をおこない、販路開拓や商品の認知度を高めるために日々試行錯誤しています。大学卒業後は、作業療法士として病院や訪問看護の会社に勤務していました。気づけば30代になっていて、「これからは自分のやりたいことにチャレンジしていきたい」と思い、転職を決めました。「発酵食品マイスター」の資格を活かしてお味噌の事業に携わりながら、週に1度は訪問看護の仕事も続けています。飲食店で働くことも憧れていたため、アルバイトもしています。トリプルワークができる今の会社の環境はとても恵まれていると感じています。

仕事のやりがいやこれからの夢

現在の会社へ2022年1月に入社し「OMISONOMORI」のお味噌は同年6月に販売が開始されました。商品開発に携わるのは初めての経験だったため、商品の撮影をしたりデザインソフトを使ってウェブページを作ったり、入社して「から覚えました。特に思い出に残っているのは、色や

社内の方々に私たちの仕事を認知していただいていたら、結果も違ったのかなと後悔しました。まずは目の前の大切な仲間へ寄り添い、お味噌のことや私たちの活動を理解していただくように努めていきたいです。

卒業後、母校や同窓会、同窓会生との「つながり」を感じたエピソードがあれば教えてください。

昨年、作業療学科7期生の同窓会に初めて参加しました。自分でも言うのも恥ずかしいのですが、在学当時はあまり学校に行かず単位も出席日数もギリギリで…(笑)。付き合いも良くない、可愛げもない私を同窓生のみんなが温かく迎えてくれて涙が出るほど嬉しかったです。一人ひとりに感謝の気持ちは伝えきれませんが、とても素敵な人たちに囲まれて学生時代を過ごしていたはずなのに、ほとんど関わっていません。自分を反省しています。現在のトリプルワークという環境の中で多くの人と関わりながら仕事をできるようになり、より丁寧に目の前の人たちに向き合うことが大切だと改めて感じています。これは、学生時代の教訓が活かされているように思います。

同窓生へのメッセージ

人生は一度きり、やりたいと思ったら即行動。臆さずやってみないと好きか嫌いか、自分に向いているか向いていないかわからないです。やらない後悔よりやった後悔、やらなきゃ人生損しちゃうかもよ！と思いつながら行動するように心がけています。皆さんもぜひチャレンジ精神で人生を楽しんでいきましょう！

Information

MEDICEPT 株式会社メディセプト

株式会社メディセプトは、在宅医療・在宅看護を中心に、医療・介護・福祉分野の事業および、ウェルネス事業として健康で豊かな暮らしを支える「食」について事業展開しています。管理栄養士に加えて臨床心理士、看護師、理学療法士、作業療法士をアサインし、食とこころの関係を紐解きます。メディセプトは在宅医療の普及推進を通じ、健全な地域社会の育成に貢献する企業です。

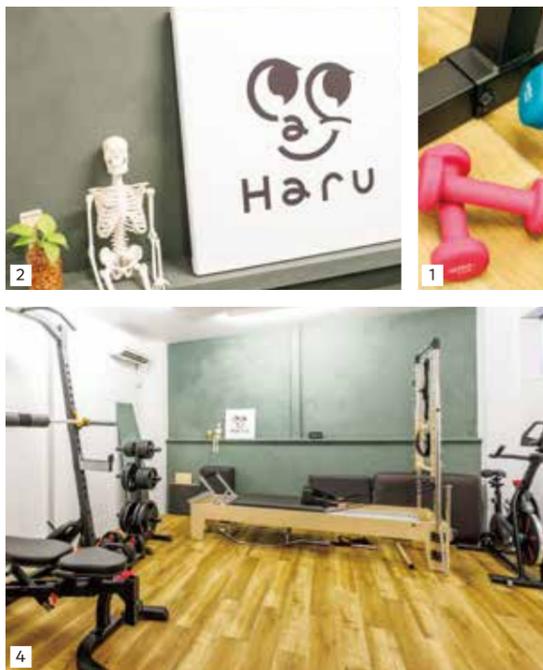
【住所】〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-9-12 浅草駅前ビル6F [電話番号] 03-5809-1761 [ホームページ] MEDICEPT <https://medicept.co.jp/> おみその森 <https://omisonomori.com/>





「GIVE & TAKE」で 広げる物事の輪。 新進気鋭のピラティストレーナー

- 1・4 /美しく清潔な環境を整えたパーソナルレSSLルーム
- 2 /お気に入りのロゴ「Haruボーイ」は友人にデザインを依頼
- 3 /お店をオープンして2ヶ月ほどは記憶がないほど忙しかったと語り、このまま継続してお客様に寄り添いお店を営んでいきたいと話す古川さん。



したいと考えています。特に60〜80代の方は腰や肩、膝などに不調を抱えている方が多く、そういった方に寄り添いマイナスをゼロにしていきたいです。テーマは「健康」と「姿勢改善」。それを踏まえてゼロをプラスしていくのがピラティスやアスレティックトレーナーの役割だと思っていますし、自分の強みだと感じていきます。

これからの目標は「医療未満や医療に至らない程度の不調や不安を抱えている方たちに寄り添える」そんな場所になりたいです。そのためにも、みんなから愛されるお店の空間作りにも力を入れています。ロゴが可愛いのも推しポイントです！私は「GIVE & TAKE」を大切にしている、自分がGIVEした分は後から必ず返ってくる」と信じています。GIVEを続けていくことで巡り巡って大きなGIVEとして必ず自分に返ってきます。お店をオープンするにあたって開業に関わる仕事は、ほとんど友人に依頼しました。ロゴデザイン、内装業者、金融機関など、これらを友人に依頼することができたのは、それだけ助けてくれる友人が周りにいたということに感謝しかありません。

健康スポーツ学科
2015年卒

古川 春平 さん

新潟県妙高市出身。大学卒業後、新潟市内の整形外科クリニックに付属したメディカルフィットネスに入職。“Exercise is Medicine (運動は薬である)”という言葉に信念を込めて、リハビリや理学療法士と連携しながら怪我から復帰するオリンピックアスリートから一般の運動初心者の方までさまざまな運動指導のバリエーションを経験。パーソナル・グループ問わず様々なシーンでお客様の身体の細かな部分を見つめなおす丁寧な指導を心掛けた指導をおこなっている。

現在のお仕事と開店までの道のりを教えてください。

新潟市で、2022年11月より「Studio Haru (スタジオ ハル)」というピラティスとパーソナルトレーニングを用いた健康と姿勢改善のお店を経営しています。在学中にトレーナーの勉強をしてアスレティックトレーナーの資格を取得しました。卒業後は、資格を活かして活躍できる整形外科併設のメディカルフィットネスに4年間勤務し、2020年にフリーランスのトレーナーとして独立していました。

仕事のやりがいやこれからの夢

病院に通うほどでもない不調や悩みを抱えている方は多く、そのような方々に積極的にアプローチ

今後も「GIVE & TAKE」で物事を大きく広げていきたいです。

卒業後、母校や同窓会、同窓会生徒の「つながり」を感じたエピソードがあれば教えてください。

であることが大前提だと思っています。僕は運動という手段で健康に関わっていますが、さまざまな場面で身近な人の健康を守り、育んでいく事を職業にしている本校の卒業生に出会う度に誇りに感じます。これからも一緒に頑張ってくださいませよう。

大学の先輩や同級生、後輩のトレーナー仲間とは今でも交流があり、タイミングが合えば意見交換や勉強会などを開催しています。お店をオープンした際は、多くの仲間たちからお祝いをいただきました。新潟にいると特に横のつながりを感じる事が多くあります。最近では新潟医療福祉大学のトレーナー部から講師の依頼をいただくことがありました。また、フリーランスになってお仕事が少なかった時期には、大学の同級生からお仕事の依頼をいただいたりと、大学で築けたつながりにとても感謝しています。

同窓生へのメッセージ

「楽しいは健康の上に成り立つ」
楽しく人生を過ごすためには健康

Information

Studio Haru (スタジオ ハル)

あなたの今と未来を作る。健康と姿勢改善特化のスタジオ。未来が楽しみになれる身体づくりをパーソナルトレーニングとピラティスでご提案します！

【住所】〒950-0077 新潟県新潟市中央区天明町1-24-1F
【営業時間】10:00~22:00 【定休日】日・祝
【MAIL】studioharu.sf@gmail.com
【ホームページ】https://haru-2022.com





発奮興起！探究心を磨き続け、 現場を引っ張るスペシャリストへ

になりました。初めて任されたときはとても緊張しました。補助として隣で見ても緊張しましたが、いざ自分がその立場で機器を触るとなる

と緊張で汗だくでした。多くの手術症例を経験して、とてもやりがいのある仕事であることあらためて感じています。人工心肺などの手術は実施される病院が限られているので、この経験は自分の武器であると感じています。

どのようなアプローチがあるのか、データを見ながら様々な分野の先生方とコミュニケーションをとって、課題解決していくことに強くやりがいを感じています。

これからの目標は、今まで横に広げていた知識を深掘りしていきたいです。当院では二人がいくつかの業務を掛け持ちしている状況です。その様な状況だからこそ「この分野はこの人に聞いたら大丈夫だよね！」という環境になることが

最良だと感じます。わたしは、呼吸系や体外循環の認定資格を取得して現場で活かしたいと考えています。ただし、資格を持っているだけでは、知識として深め、スペシャリストを目指していきたいです。仕事では中堅の立場にもなるので、自分の武器や強みを持って、マナーリ化を防ぐためにも自分

身を奮い立たせていきたいです！

卒業後、母校や同窓会、同窓会生との「つながり」を感じたエピソードがあれば教えてください。

コロナ前は地元の新潟に帰って同級生や大学の先生と会って交流をとっていましたが、現在は全く会えていません。他の職場の方とも容易に会って交流するということができなくなっていました。しかし、そのような状況でもゼミの担当教諭(高橋良光先生)から連絡があ

現在の仕事内容と 臨床工学技士になるまでの道のりを教えてください。

現在は臨床工学技士として、さいたま赤十字病院で勤務しています。当院での臨床工学技士の仕事のメインは「機器管理」となります。院内で使用する機器を管理し、貸出・返却対応や、返却された機器をメンテナンスし、あらたに貸出できる状態にしています。また、院内を回って呼吸器など様々な機器に異常がないかなどの点検もこなっています。コロナの治療でも使用され話題になっているエクモ(体外式

臨床技術学科
2017年卒

小田 雄基 さん

新潟県佐渡市出身。在学時は高橋良光先生のゼミに所属し、ダブルライセンス(国家資格)取得に向け毎日10時間以上勉強していた。卒業後はさいたま赤十字病院へ就職し、臨床工学技士として勤務。休日は最近購入したロードバイクを楽しみ、将来は地元の佐渡市で毎年開催されるロングライド(サイクリングイベント)に出場するのが夢!

仕事のやりがいや これからの夢

膜型人工肺)という機器のセッティングもおこないます。その他にも血液浄化や人工心臓など、日々の業務は多岐にわたっています。高校生の頃、化学や理科系の科目が好きで、医療職の分野を調べていたら臨床工学技士という職業を知りました。大学入学後、臨床検査技師とのダブルライセンス取得を目指す中で、4年生の実習で佐渡の実家に帰った際、祖父が体調を崩し、人工透析の治療を受けることになりました。祖父の状況をきっかけに、治療の中で臨床工学技士の資格を活かしていきたいと強く思うようになり、今に至ります。

臨床工学技士として初めて手術対応に入ったのは入職2年目でした。手術には臨床工学技士3名で対応するのですが、最初は「外回り」といって道具を取ってくる担当でした。その後、記録などを取る補助業務を1年間経験してから、機器を実際に操作する担当

同窓生へのメッセージ

このような世の中では、医療関係者だけではなく、一般企業に勤めている方々も大変であると感じます。それぞれの職種で違った苦労が沢山あると思います。このような状況だからこそ、縦や横のコミュニケーションをしっかりと繋いで乗り越えて、またみんなで会えたり喋ったりできるような世の中が来てくれるといいなと思います！みんなで乗り越えていきましょう！



1/臨床工学技士という職種はまだマイナー。いろいろな職種の方とつながって意見交換をしながら自分の仕事を多くの方に知ってほしいと語ってくれた。2/医療現場での小田さんの様子 3/重症患者さんが特に多い病棟のため、業務が忙しい日々でも安全確認には特に気を付けている。

Information

さいたま赤十字病院

さいたま赤十字病院は赤十字の基本理念のもと、職員一同赤十字としての誇りと責任をもち、質の高い医療の提供に取り組んでいます。特に高度救命救急センターは、地域の中心的な救命救急施設であり、社会のニーズに応えています。ドクターカーを24時間、365日運用し、埼玉県2番目となる高度救命センターとして、更なる救急医療に尽力していきます。
【住所】〒330-8553 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5
【電話番号】048-852-1111(代)
【ホームページ】https://www.saitama-med.jrc.or.jp



作業療法学科同窓会設立にあたり

作業療法学科同窓会は2022年3月にキックオフミーティングを開催し、定期的に役員会を開催してきました。OT同窓生の縦横の繋がりから、学科同窓会LINEグループも700名以上の登録が得られ、情報共有・発信の基盤ができているところです。学科同窓会の活動を通して、この数年のコロナ禍で希薄になっていた同窓生同士の繋がりがまた活気づいたとの声も聞かれています!! 今後も学科同窓会主催の研修会や交流会を通して知識の充実だけでなく、同窓生のライフステージやキャリア形成のヒントとなる学びの場を提供できる活動を展開していこうと考えています。また、大学同窓会本部とも連携し、より良い相互発展を目指していきます。

作業療法学科同窓会イベントを開催しました!! 125名参加!

2023年3月1日(水)、ZoomにてOT学科同窓会主催のイベントを開催しました。当学科にゆかりのある講師陣を迎え、125名の同窓生よりご参加いただきました。ざっくばらんな講話の中にも、今後の作業療法士活動やそれぞれのライフプランに活かせる内容が入っている貴重な時間



になりました。縦横の隔たりなく懐かしい面々が集い交流できる場を設けることができ、お互いに顔を知る間柄だからこそできる研修会であったと感じています。また、今回のイベントは家事や育児、通勤の移動中などライフステージに合わせてカメラ・マイクOFFでの参加もOK!という、生活を考えるOTらしさを強く感じる研修会となりました!!



理学療法学科同窓会活動報告と展望

新潟医療福祉大学 理学療法学科 助教 横田 裕丈 先生より

開学20周年を機に、理学療法学科では2021年3月のキックオフミーティングを皮切りに、Zoomによる同窓会オンラインミーティングをこれまで8回にわたり開催して参りました。本学科の教員と同窓生が1名ずつ、研究による知見や臨床での活動状況の紹介、意見交換などを行っており、今では毎回100名前後の同窓生がリアルタイムで参加する会となっています。また、先日開催した第8回オンラインミーティングでは、Zoomのブレイクアウトルームを用いて各期でのミニ同窓会を開催致しました。通常1時間の開催のところ、この日はすべての期が終了したのが開始から2時間後という盛り上がりを見せました!

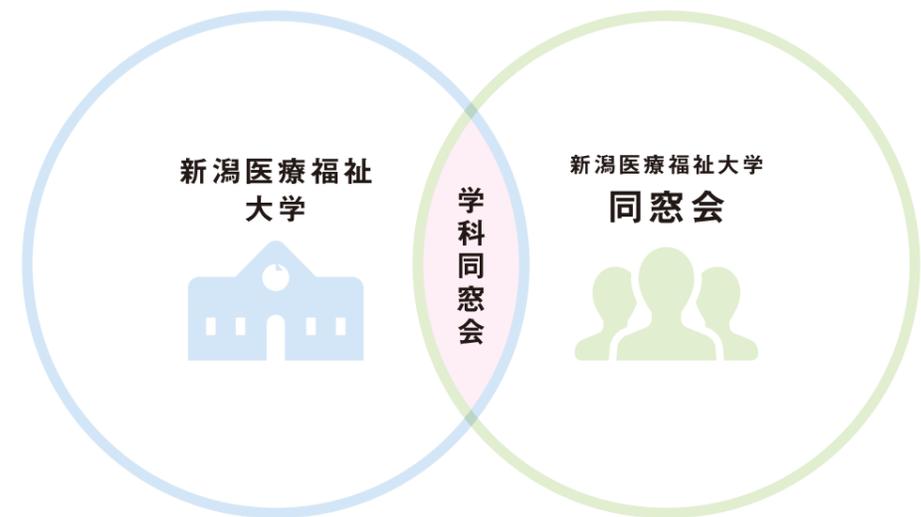
皮肉にもコロナ禍においてオンライン上でのコミュニケーションツールが飛躍的に発展したことで、約1600名という業界屈指の同窓生ネットワークを再構築することができました。学科、同窓生に加えて大学同窓会本部も含めた三者の密な連携により、ライフステージや環境の異なる「すべての同窓生の可能性を広げる人的ネットワークの場」を目指し、活動して参ります。



学科同窓会(組織)の構築・活動を推進します!!

母校(新潟医療福祉大学)では、学長マニフェスト『面倒見の良い大学を目指す』のもと、**学科独自の同窓会組織**を構築し、卒業教育や生涯学習の支援、同窓生と各学科(大学)の相互交流を推進することとなりました。

同窓会本部としてもこの学科同窓会の構築を推進し、同窓生×同窓会×学科(大学)のより強固な連携を生み出し、同窓生や在校生への支援拡充へと繋げてまいります。



ごあいさつ



会長 田村 祐美 理学療法学科 2007年卒

同窓会員の皆様におかれましては、日頃より本会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和4年度より同窓会会長に就任した理学療法学科3期生の田村祐美と申します。

さて、本会ではこれまで同窓会誌の発刊や連携研修会の開催、在校生支援として合格祈願グッズの配布など、その他にも様々な活動の企画・運営をおこなってまいりました。しかしながら、この数年間はコロナ禍ということもあり、本会の活動も縮小せざるを得ない状況でした。しかし、昨年度は対面での伍桃祭(大学祭)が開催され、本会もブースを設置し久しぶりに卒業生同士の対面交流を楽しむことができました。伍桃祭当日は、同窓会公式マスコットキャラクターの投票を来場された皆様へお願いし、同窓生がデザインしたキャラクターが見事選ばれました。本誌特集でも詳しくご紹介しておりますので、未永く愛されるキャラクターとして育てていきたいと思っております。

この同窓会誌tetelは卒業生同士の繋がりや母校との繋がりを大切に、各専門分野で頑張っている同窓生を紹介し、応援することを目的に作成しています。大学内でも「同窓会・生涯学習連携推進委員会」が立ち上がり、母校と本会が相互に連携・協力する体制が構築されてきています。その一つとして各学科の『学科同窓会の設立』も始まりました。同窓会員と大学の距離が近くなる事で、これまでとは違った活動が出来るのではないかと期待しております。同窓会を通じて多くの同窓生が「繋がっている」ことを実感していただければ幸いです。今後とも同窓会の活動にご理解・ご協力の程、よろしくごお願い申し上げます。

連携総合ゼミ同窓生派遣事業

2022年8月31日(水)に本学4年生と新潟県内・海外を中心とした6大学の4年生が参加した連携総合ゼミへ講師派遣をおこないました。講師として岡村 聡之さん(健康栄養学科/2005年度卒)、星 緩季さん(健康栄養学科/2016年度卒)、本田 早紀さん(理学療法学科/2015年度卒)、永正 崇文さん(社会福祉学科/2007年度卒)、能登 友紀恵さん(看護学科/2016年度卒)、風間 美華さん(言語聴覚学科/2014年度卒)、井藤 直輝さん(義肢装具自立支援学科/2016年度卒)に出席いただきました。

連携総合ゼミ同窓生派遣事業とは

具体的な症例をもとに学科混成グループで支援策を検討していく連携総合ゼミにおいて同窓生が専門職としての視点からアドバイスを伝え、経験をもとにサポートする役割を担う在学生支援事業です。



Voices /

風間 美華 (旧姓:若杉) (新潟医療福祉大学同窓会 副会長 言語聴覚学科 2014年卒)

今年は7名の同窓生に参加していただきました。在学生は今持っている知識の中でどういった支援ができるか一生懸命に考えており積極的に質問される場面が多く、学生たちが高い意欲で臨まれていることが実感できました。

事例によっては関わる機会がない分野もあり適切な回答ができなかったと感じています。多岐にわたる事例に対応していくには様々な専門性を持った同窓生の参加が必要です。より多くの同窓生に参加していただき充実した事業になるよう改善していきたいと思っております。

また時期が来ましたらご案内いたしますので、皆様のご参加お待ちしております。



国家試験・資格試験“合格祈願”“大願成就”クリアファイル寄贈

国家試験・資格試験を受験する4年次生の皆さんへ、同窓会より合格祈願・大願成就グッズを贈呈しました!クリアファイルには前年度に卒業した同窓生から、後輩たちに向けたメッセージが添えられており、夢や目標が叶うようにとの願いが込められています。



同窓会からのお知らせを届けるために、会員情報の登録をお願いします!



委員およびサポーターを中心に、同窓生の皆さんへ会員情報登録依頼のお声がけをさせていただいております。

これまで主な同窓会活動として、同窓会誌の発行・送付をおこなってきましたが、新たな取り組みとして、メールマガジン(学内情報・会員の活動・研修やイベントの情報提供)の発信等を検討しています。卒業後も有益な情報をお届けいたしますので、ぜひ会員情報の登録をお願いいたします。



※提供いただいた情報は、個人情報取扱基準に基づき適正に取り扱います。上記の目的以外での使用や、会員を除く第三者に提供したりすることはありません。

大学祭同窓会ブースの様子

2022年10月9日(日)に本学で約3年ぶりに対面開催となった伍桃祭では同窓会ブースの出展をおこないました。当日は、似顔絵コーナーやカイロプラクティックなどの体験会やキッチンカーの出店・スポーツアスレチックなどの「あそびのひろば」を催し、多くの家族連れやお子様にご来場いただきました!



第10回 連携研修会 人生100年時代の眼の健康を考える

2022年12月3日(土)に第10回 連携研修会を3年ぶりの来場型と、オンライン型を同時開催するハイブリッド形式で初めて開催いたしました。

今回は、生涯を通じて健康でいきいきと過ごすためにとても大切な「眼の健康」と「視覚障害」をテーマとしました。医療・福祉の現場では、視機能が低下している患者様と接する場合があります。教育の現場では、視覚障がいのある児童生徒を指導する場合があります。本学卒業生の職場における取組事例をもとに、眼の健康と視覚障害について考えました。

連携研修会とは 2013年より開催され、10回目の開催となります。新潟医療福祉大学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上(スキルアップ)の実現を目的とした同窓会の中心を担う事業です。卒業教育・生涯教育を充実させるとともに、専門職として活躍している同窓生どうしの新たな連携方法を模索し、相互の親睦を深める機会を提供しています。

【第一部 同窓生による活動報告および多職種間連携についてのパネルディスカッション】

パネラー：垣内 彩花 さん(視機能科学科 2018年卒)
田子 篤史 さん(義肢装具自立支援学科 2012年卒)
益戸 郁実 さん(健康スポーツ学科 2020年卒)
花澤 彩香 さん(看護学科 2017年卒)

コーディネーター：岡村 聡之
(新潟医療福祉大学同窓会 首都圏支部長 健康栄養学科 2005年卒)

【第二部 特別講演】

眼の健康・視覚障害に関する連携のあり方について
講師：石井 雅子 先生
(新潟医療福祉大学 視機能科学科 教授)



Voices /

講師：石井 雅子 先生より

卒業生の皆さんが、専門職として、常に対象者に寄り添って、向き合っておられることがよくわかる活動報告でした。感覚器の障害は外から見て分かりにくい障害ですが、様々な職種の視点から視覚障害を考える良い機会にもなりました。また、働く上での連携の大切さを再確認できる内容であり、実り多い連携研修会であったと実感いたしました。



コーディネーター：岡村 聡之より総評

今回はコロナ禍以降、初めてハイブリッド開催となりました。久しぶりに画面越しではなく、直接対面でのディスカッションは新鮮さを感じました。同窓生の卒業教育の一環として還元できれば幸いです。

眼の健康をテーマに、視機能科学科を主幹としておこない、視覚障害の困りごと、困りごとに対する解決方法を学べる機会となりました。まさにキュアとケアを両立させるために多職種連携は重要であり、当研修会がその一端を担っていききたいと思っております。

講師の石井先生をはじめ、パネリストでご協力いただいた同窓生、関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。



参加者の声

視機能科学科学生より

視能訓練士の方のお話を聴くことが目的でしたが、ほかの同窓生の方のお話によって視覚障害に対するほかの職種の視点を学ぶことができ、とても興味深かったです。

義肢装具自立支援学科教員より

他分野の知識や現状、工夫について知ることができてよかった。改めて専門職連携の重要性を感じた。



作業療法学科同窓生より

いろいろな立場の方のお話を聞くことができ、大変勉強になりました。現場の問題や悩みを卒業生同士で共有したり、連携する、職場で上司とはなかなかできない会話も同じ卒業生だったら少し気軽に話せてヒントが生まれたりする、これからも連携研修会として卒業生をつなぐ活動が続いていくことを願っています。特別講演もとてもすばらしく、いろいろな学科の卒業生に関わる内容だったと思います。アーカイブ配信でもう一度拝聴したいと思います。



New!
わたしは
ひよっこ!
社会人1年目の奮闘と成長

患者様にとって
質の高い医療を
提供できる
スペシャリストを
目指す!

主な業務内容は、理学療法士として上半期（4月～9月）は亀田総合病院（急性期）の総合診療チームに所属し、消化器や感染系の疾患をお持ちの高齢の方を担当していました。下半期（10月～3月）は亀田リハビリテーション病院（回復期）にローテーションし、40～90代と幅広い年代で整形と脳血管の疾患をお持ちの患者様を担当しています。

特に一年目で苦労した点は、学生時代との責任の違いです。組織の一員として働く以上自分の行動によって患者様はもちろんです、同じチーム内や、リハビリ室の職場の皆さんに合わせがいつてしまいます。そのため常に先を見越した上で報告・連絡・相談をおこなうことが重要であると感じました。また、礼節面においても上位者への相談の仕方や患者様への言葉遣い

等も見直す機会になりました。

理学療法士として自身の知識・技術不足を痛感した1年でしたので、評価（正確性・再現性）・知識（解剖・運動・生理）の質の向上をこれからも継続的に取り組み、今後は患者様にとってリスクとベネフィットのバランスを見極めた質の高いリハビリを提供できるように努めて参ります。



浅水 俊輔さん
あさみず しゅんすけ
理学療法学科 2022年卒
●勤務先／亀田メディカルセンター

Vol. 2
「心停止の予防」について

がらだ
の
だがり



笠原 ゆきのさん
かさはら ゆきの
救急救命学科 2021年卒
●勤務先／長岡市消防本部



皆さんは「救命の連鎖」という言葉を耳にしたことはありませんか？

傷病者の命を救い、社会復帰に導くために必要となる連のおこない救命の連鎖といえます。この「救命の連鎖」は、「心停止の予防」「心停止の早期認識と通報」「二次救命処置」「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」という4つの輪で成り立っています。※図1

「救命の連鎖」の2つ目の輪と3つ目の輪は、救急車を待つのではなく現場に居合わせた皆さんによって迅速におこなわれる事が生存率を高め、また適切なAEDの使用により生存率や社会復帰率がより高くなる事がわかっています。そして、病院内で医師等による「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」という4つ目の輪まで途切れなく繋がることで、さらに生存率、社会復帰率が高くなるわけです。

です。成人の突然死の原因には急性心筋梗塞や脳卒中があります。これらは生活習慣病ともいわれ、癌とともに日本人の三大死因です。生活習慣病のリスクを低下させることも重要ですが、これらの疾患を発症した方の多くが何らかの前兆を感じているとされています。「喉が痛い」「奥歯が痛い」「左肩が痛い」「背中が痛い」「息が苦しい」など、心臓と直接関係ないと思われる症状がそのサインであることもあります。突然にこのような症状が出現し緊急性が高いと判断すれば躊躇することなく救急車を要請することが重要です。

これによって、心停止に至る前に医療機関で治療をすることが可能になります。救急要請に迷う方も多いかと思いますが、#7119や地域ごとに定められた電話番号での救急度の判断相談やアプリで緊急度を素早く判断できるものもあります。

皆さんが生活の中で、「心停止の予防」を意識することで大切な人の命を繋ぎとめることができるかもしれません。ぜひ、小さな気づきを大切にいち早く病院での検査・治療を受けることを心掛けて過ごしてみてください。

教員おすすめの本紹介

タイムマネジメント大全
～24時間すべてを自分のために使う～



私自身は器用な方ではなく、何をやるにも人一倍時間がかかると感じていました。もっと効率良く仕事をし、プライベートも充実させたいと思っていた中でこの本と出会いました。この本を読んだ後、私自身の無駄な時間に気づき、効率の悪い脳の使い方をしていることに驚きました。

誰しも「1日があつと長ければ良いのに」と考えたことがあるのではないのでしょうか。有るか平等である24時間だからこそ、少しの時間の工夫と達成感によって幸福を感じることができるとだと思います。また、何をすることも目標設定が大事なのだと考えるきっかけになりました。

紹介してくださった先生は……

郷 貴博 先生



新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科 講師
2021年 新潟医療福祉大学院 博士課程 修了(保健学)

専門職からJob Change!へ

卒業後から現在のお仕事に至るまでの経歴を教えてください。

私は卒業後、医療法人に就職しました。回復期病棟を経て通所リハビリを経験することで、医療から在宅まで幅広く経験することができました。多職種の組織でケアに関わる問題解決に取り組み中で、ハンドオフで結果の出せる福祉用具に興味を持ち、腰痛予防や自立支援の要素も含めてリハビリのアセスメントから福祉用具やケア方法の提案をできるような勉強を重ねていきました。その後、ご縁があった車いす業者に転職。身体が不自由な方に対して、車いすを中心に移動や移乗、姿勢のお悩みを解決できるように福井県中を飛び回っています。

転職を考えた理由、決断した理由は何ですか？

介護保険のリハビリの仕事で悩むことが多くありました。悩んだことについて、勉強し、行動を重ねてきたのですが、改善することが難しかったです。自分の性格や価値観と仕事内容の不一致もあるのではと考えました。今後人生をかけて、自分が社会に貢献するために転職も選択肢のひとつとして考えるようになり、家族等に相談して決断しました。

転職を考えたから決めるまでに心配だったことや悩んだことはありましたか？

所属していた部署や法人に迷惑をかけるのではないかと不安に思うことはありましたが、正直に話をして面談の回数を重ねることによって不安は解消しました。また、理学療法士の資格を直接使わない仕事であることも不安でした。

理学療法士からオーダーメイド車いすの製造販売業者(ハンドリーム・ワークス!)へ転職



小林 文平さん
こばやし ぶんぺい
理学療法学科 2010年卒



転職をする前と後で変わったことや転職してよかったことなどを教えてください。

一番はネットワークの広がります。今までは自分の法人に関わっている方や在宅で介護保険対象の方など、時期や地域に限定されていた方が、転職してからは横断的に障がいをもした方、その関係者に関われるようになり、赤ちゃんと高齢者まで、福井県中の身体が不自由でお困りの方やそのケアに従事する方と関われることがやりがいを感じます。

これから転職を考えている人に向けて、アドバイスや応援のメッセージをお願いします。

自分が保有する資格(私の場合は理学療法士以外の仕事を学ぶことは勇気のことだと思えます。全ての人に転職を薦める訳ではありませんが、石の上にも3年。3年～5年、本気で努力を重ねても、もやもやが解消しないのであれば環境を変えることは一つの選択肢だと思います。大丈夫。あなたは有能です！新しい世界が待っています。